

第 1 回：物を大切に扱う心構え

教場長 田中仙融

新たにこのコラムを開始するにあたり、今まで、古い先生方がお話ししてくださった中には、茶席での対応だけに限らず、私たちの日常生活においても、とても参考になる素晴らしいヒントがたくさん隠れているのだということを、あらためて考えてみました。そのような先生方の教えを皆さんに大切に伝え、そして守っていくことが、私の役割の一つでもあると思い、この“一緒に素敵なお茶人をめざしましょう”のコラムを担当させていただきます。

さて、いよいよ春真っ盛り、お茶会の多くなるシーズンがやってきました。以前、「もしも大事なお道具に粗相があるといけないから、懐中する菓子切も、金属のものを避けるという心配りも大切です」と、ある先生から伺ったことがあります。たしかに金属製のものが道具の上落ちれば、道具を損ないかねません。このお話を伺ったときに、指輪や根付け、髪飾りなどを身に付けて茶席に入らないという原則と同じ考え方で、道具を大切に扱うための配慮なのだと感じました。

物を損なわないという観点から考えると、茶席に入る際に、手荷物をたくさん持って入ってしまうと、茶席を損なうことになりかねません。本来は少人数しか入らない茶席に、大寄せの茶会では大勢の人が入り、壁にずっと寄って座ることになります。その際にご自分の後方に荷物を置いてしまうと、いくら腰張りがしてあるとはいえ、壁などを傷める要因になってしまうかもしれません。数寄屋袋などにコンパクトにまとめて、必要な物だけを持って席に入るということも、スマートな茶人への第一歩なのかも知れませんね。

平成 24 年 05 月 発行 会報「えんじゅ 71 号」掲載